

令和7年9月議会 宇都宮市議会定例会報告

宇都宮市議会では、令和6年9月議会の一般質問から「会派持ち時間制」が導入され、各定例会に登壇する質問者は20分、40分、60分のいずれかを選択することになり、3名以上の会派には、「代表質問」の1名のみ10分間を加算できるようになりました。

代表質問 50分

福田智恵

質問項目

1 市長の政治姿勢について

- 1) ライトライン
- 2) 中期財政計画

2 女性活躍推進について

3 ごみ屋敷問題・食支援を通じた共生社会について

4 教育行政について

5 平和行政について

6 文化行政について



福田智恵市議
録画配信HPのQRコード

質問及び答弁（抜粋）

1 市長の政治姿勢について

- 1) ライトラインについて

Q 西側延伸にあたり地下埋設物の移設と用地補償の必要な場所及び想定期間、費用について伺う。

A 【市長答弁】移設は全線で必要となり、用地補償は、裁判所前から教育会館前の区間Ⅱ・区間Ⅲを想定している。想定期間と費用については、本年10月に提出予定の「軌道運送高度化実施計画」の中で示していく。

Q 仮に全線開通が難しい場合、部分開業や東西分断での整備は検討しているのか。工事の進め方や、開業遅れによるJR宇都宮駅西口駅前広場整備事業や市街地再開発事業などへの影響について見解を伺う。

A 全線開業を目指している。工事の進め方については、区間Ⅰの道路改良工事や地下埋設物の移設工事等から着手する。着工遅れによる再開発事業等への影響はないものと考えている。

Q 具体的な着工箇所はどこを想定しているのか。また、80件の用地補償が必要との説明があったが、具体的なエリアについて伺う。

A 【建設部長答弁】県や県警などと綿密に調整し、着工箇所を決定していく。また、用地取得については、実施計画の策定や都市計画の各種手続きを進める中で示していく。今後は、地権者などを対象とした説明会を実施し、事業への理解促進に取り組む。

2 女性活躍推進について

Q 栃木県は都道府県別の男女賃金格差が最下位であり、若年女性の人口流出も深刻である。本市では「きらり大賞」を通じて女性活躍の職場づくりを推進しているが、今後の展開を伺う。

A 【総合政策部長答弁】企業へ積極的な働きかけを行うとともに、新たに表彰事業者のネットワークイベントを開催し、女性活躍の横展開を図り表彰事業者が広がるよう取り組んでいく。

4 教育行政について

Q 国では令和6年度から教員業務支援員をすべての小中学校に配置する方針が示されたことから、小規模校だけでなく中規模の小学校まで配置を拡大し、計画的にすべての小中学校に教員業務支援員を配置できるよう、県に働きかけるとともに、市としても講ずるべきではないか。また、元教員などの経験者は、本人同意があれば業務範囲を拡大できるようにしてはどうか、見解を伺う。

A 【教育長答弁】本市では国の事業を活用し、教員の業務を支援する職員を小規模の小学校に17名配置しており、業務負担軽減に効果的である。今後とも、県が主体となり全校配置となるよう、引き続き要望していく。また、業務範囲の拡大は有効と考えられるが、国の事業を活用するにあたり、業務内容を限定する必要がある、現在の取組を継続していく。

個人質問 60分

駒場昭夫

質問項目

1 データセンターの誘致について

2 宇都宮市民憲章の推進及び普及啓発について

3 宇都宮市スポーツ施設整備計画について

4 豪雨に備えた被害対策について

5 宇都宮城址公園について

- 1) 宇都宮城址公園の再整備
- 2) 宇都宮城址公園開園20周年記念イベントの開催

6 子どもの家の運営について

7 児童生徒における熱中症対策について



駒場昭夫市議
録画配信HPのQRコード

質問及び答弁（抜粋）

4 豪雨に備えた被害対策について

Q 令和7年7月の豪雨に対する緊急対策工事の効果の確認について伺う。

A 【建設部長答弁】今回の緊急対策については、河川の河道掘削による流下能力の向上や、道路の雨水貯留浸透施設の整備による雨水排水機能の向上などの効果が期待できることから実施したところであり、今後は、大雨時における河川の水位や道路の冠水状況の変化を観測するなど、その効果の確認を行っていく。

Q 再び同様の災害が発生した場合の対応策について伺う。

A 災害発生時において、速やかに対応対応を行うとともに、今回実施した緊急対策と同様に緊急点検パトロールを行い、早期に被害軽減が可能な対応策を実施する。

Q 定期的な点検パトロールについて伺う。

A 河川や道路などの状況を把握することは、健全性を確保することや近年の局地的な豪雨への備えとしても重要であることから、新たな溢水※

箇所についても点検パトロールを実施するなど、適切な維持管理に努めていく。

※溢水…水があふれること

Q 岩曽団地自治会との意見交換を踏まえた今後の対応について伺う。

A 岩曽町周辺の奈坪川については、これまで大雨により溢水被害が度々発生しているところであるが、本格的な河川整備までには期間を要することから、今回、地域の皆様と意見交換を行うこととしたところであり、皆様からいただいたご意見を踏まえ、さらなる被害軽減策の検討を行い、これらの検討状況に加え、奈坪川の整備状況などについてもお伝えしていく。



岩曽中通り変則五差路にて撮影

個人質問 60分

横須賀咲紀

質問項目

1 共創のまちづくりのさらなる発展に向けて

- 1) 共創の理念を市民に広げる取組
- 2) 共創センターの設置

2 高校生のまちづくり参画の促進について

3 若者まちなか活動・交流センターの利便性向上について

4 東京圏における関係人口づくりについて

5 就労継続支援B型事業所の安定運営について

6 外国人市民に向けた取組について

- 1) 生活ルールの周知
- 2) 外国人市民の市政への参画

7 子どもの体験格差について



横須賀咲紀市議
録画配信HPのQRコード

質問及び答弁（抜粋）

2 高校生のまちづくり参画の促進について

Q 未来を担う若者の声を市政に反映させるために、特に高校生に対し、まちづくりへの参画を促進していくことが重要であると考えているが、市の見解を伺う。

A 【子ども部長答弁】本市の次世代を担う、高校生を含む子どもや若者がまちづくりに参画できる機会を充実していくことは、市民意識の醸成や主権者教育の観点からも大変重要であると認識している。

Q 近隣自治体や県の事例のように、高校生がまちづくりの主役となるプロジェクトの実施が必要であると考えているが、見解を伺う。

A 令和5年度より、小学5年生から大学生相当までの子どもや若者から意見を伺い、本市のまちづくりに反映していく「イノベーションmiyaユース会議」の開催や、市長と直接対話を行う「市長とトーク」において、市長が市内の高校に直接出向き意見交換を行う機会を充実している。今後とも、より多くの子どもや若者が参加してもらえるよう、SNSを活用した周知に取り組むとともに、他市

の事例も参考にしながら、まちづくりへの参画を積極的に促進していく。

4 東京圏における関係人口づくりについて

Q 東京圏在住の本市出身者や本市に関心のある若者との「ゆるいつながり」を継続的に支えるための仕組みが必要と考える。関係人口の受け皿として、交流会などのプログラムを定期的に実施してはどうかと考えるが、見解を伺う。

A 【魅力創造部長答弁】東京圏在住の本市出身者の若者などと継続的な関係を構築することは、本市への来訪の動機付けやSNS等への情報発信、さらには将来的な移住につながることで期待できている。また今年度、都内において、本市の暮らしに関する魅力や期待することをテーマに、20歳代の女性や子育て世帯等を対象とした茶話会の開催を企画している。今後とも、関係人口のさらなる創出や拡大を図るための取組を定期的に開催し、人や企業に選ばれる都市の実現を目指していく。



私たちは皆様の声を市政に活かします!!

次回 令和7年12月議会質問予定者
郷間康久・高橋英樹・佐藤孝明